

決算説明会



株式会社 帝国電機製作所

平成24年5月24日

(東証1部・大証1部 6333)

<http://www.teikokudenki.co.jp/>

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみを全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。



株式会社 帝国電機製作所

当社の現状と今後の展望

代表取締役社長 宮地國雄

平成24年3月期の概況

百万円	平成23年3月期			平成24年3月期		
	計画(1)	金額	伸率	計画(2)	金額	伸率
売上高	15,934	16,256	10.3	17,364	17,765	9.3
営業利益	1,686	1,645	57.5	1,994	2,130	29.5
経常利益	1,505	1,523	23.0	1,996	2,130	39.9
当期純利益	879	774	5.0	1,240	1,239	60.1
1株当り当期純利益	93円12銭	82円00銭	-	134円81銭	134円74銭	-

(1) 平成22年11月8日発表の修正計画

(2) 平成23年8月10日発表の修正計画

- 増収増益。
- 売上：欧米や中国など海外市場は需要が増加基調である。国内市場は一部に復興需要が見られるものの、依然として回復が遅れており低調であったが、海外売上の牽引により、過去最高の売上を更新。
- 利益：年度末の急激な円高の緩和、売上の増加及び原価低減等により粗利率が改善。また、電子部品事業における東日本大震災やタイの大洪水による生産調整等の業績への影響が懸念されたが、最小限に抑えることができたため、全ての利益で過去最高を更新。

受注・受注残の状況

百万円	23年3月期		24年3月期			
	受注高	受注残	受注高	増減率	受注残	増減率
ポンプ事業	14,121	4,289	16,839	19.2%	6,114	42.5%
電子部品事業	2,130	70	2,424	13.8%	207	196.5%
その他事業	425	140	526	23.9%	204	45.3%
合計	16,677	4,500	19,790	18.7%	6,526	45.0%











- **ポンプ事業**

- 海外市場は需要が好調に推移しているが、国内市場は全般に回復は遅れている。
- ポリシリコン向けは欧州の財政危機等の影響が顕在化している。
- 中国においては、現在まで金融引き締めの影響は軽微であり、ケミカル向けを中心に高い受注高を維持しており、受注残も高い水準となっている。

- **電子部品事業**

- 自動車用電装品の電子機器ユニットは東日本大震災やタイの大洪水の発生によって生産調整が実施される等サプライチェーン寸断の影響を受けたが、それらの急速な復旧と自動車産業の生産回復により需要が回復傾向にある。

事業の動向

事業区分	主要製品など		今後の予想
ポンプ事業	ケミカル用	ケミカル機器用	
		LPG機器用	
		冷凍機・空調機器用	
	ケミカル以外用	半導体機器用	
		電力関連機器用	
		定量注入機器	
電子部品事業	自動車用電装品		
その他事業	特殊機器	電磁石	
		昇降機	
	健康食品		

今期業績見通し

【通期予想】

百万円 伸率%	24年3月期(実績)		25年3月期(予想)	
	金額	伸率	金額	伸率
売上高	17,765	9.3	19,188	8.0
営業利益	2,130	29.5	2,253	5.8
経常利益	2,130	39.9	2,304	8.2
当期純利益	1,239	60.1	1,513	22.1
1株当り当期純利益	134円74銭		166円43銭	

上記の予想数値は、本資料の作成日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績等は、経済情勢の変化等の不確定要因により、記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

今期業績見通しのポイント

・ ポンプ事業

- 内需については回復が遅れていた設備投資需要が見込まれる。
- 外需については北米や中国を牽引役にそれに加えてBRICs等でのインフラ整備に関わる需要（高速鉄道、原発、電力網の整備、ビル建設等）に期待。
- 超大型キャンドモータポンプの受注活動本格化。
- 調達先の海外調達の拡充を含む多様化・まとめ発注や設計・生産の効率化により原価低減を行う。

・ 電子部品事業

- 前期までに東日本大震災やタイの大洪水による影響から脱したこともあり、今期は自動車産業の生産回復が見込まれることから、売上は回復傾向が予想される。利益面においては増産対応要求が客先から来ていることもありそれに関連した設備投資に係る減価償却費が発生するものの、前年度対比増益を見込んでいる。

・ その他事業

- 企業の設備投資回復による昇降機等関連需要の増加に期待。

今後の成長戦略

海外事業の強化

- **北米(世界最大のケミカル産業があり、ケミカル用ポンプの最大マーケット)**

石油化学業界の設備投資回復に加え、太陽光発電、バイオ燃料、シェールガス、原子力発電等の石油代替市場や高速鉄道建設に期待。ただし、米国の景気回復基調の鈍化による影響が懸念される。

- メカニカルシールポンプ市場への侵攻
- 超大型キャンドモータポンプの受注
- 冷凍設備用ポンプ・バイオ燃料市場でのマーケットシェア拡大
- 市場拡大のための代理店網の営業力強化及び直販体制の拡充
- TEXAS PROCESS EQUIPMENT社のキャンドモータポンプ修理サービス事業買収によるサービス体制の拡充

- **中国(近年、ケミカル産業が急成長している)**

インフラ整備に係る需要は引き続き好調。石油化学業界を中心に旺盛な設備投資が見込まれるが、景気過熱抑制のための金融引き締めの影響や欧州の財政危機再燃に伴う輸出の落ち込みによる景気減速が懸念される。

- 台湾市場及び中国市場での更なる収益基盤強化を目的とした組織再編(大連帝国による台湾帝国の子会社化)
- 超大型ポンプ市場への本格的参入を目的とした大型ポンプ工場建設(設備を含む投資額200~250百万円)
- 新規市場・顧客の拡大を通じ、更なるシェア向上を図る。(10年電力関連機器モータポンプの現地生産・販売開始)
- 営業力強化・サービス体制の拡充。(09年2月設立の無錫サービス会社及び09年6月設立の済南サービス会社の隣接地への移転によるサービス体制強化、12年3月天津市、雲南省昆明市に営業所新設)
- 内部管理体制の拡充。(与信管理・キャッシュフロー重視・回収強化)

中期的な経営戦略と目標

- **中期的な経営戦略**

- 連結経営強化の観点から子会社を含めた事業の効率向上と一層の連携強化に努める
- 完全無漏洩構造の「キャンドモータポンプ」事業をコアとし、技術開発型企業グループとして、「よりよい製品をより安く」「お客様に信頼される製品造り」「地球環境に優しい製品造り」をベースに事業領域を拡大
- 激変する事業環境に対処するため、また景気変動に強い体質づくりを目指し、成長を図る施策を展開

- **経営目標**

- 景気動向による売上高に左右されることなく、適正利益を生み出せる強靱な経営体質を目指す
 - 海外売上高比率55%以上(平成24年3月末57.0%)
 - 売上高経常利益率12%以上(平成24年3月末12.0%)

配当金の推移

	1株当たり中間配当	1株当たり期末配当	1株当たり年間配当
平成22年3月期	10円00銭	10円00銭	20円00銭
平成23年3月期	10円00銭	10円00銭	20円00銭
平成24年3月期	10円00銭	12円00銭 (予定)	22円00銭 (予定)
平成25年3月期	12円00銭 (予定)	12円00銭 (予定)	24円00銭 (予定)



株式会社 帝国電機製作所

決算説明

常務取締役総務本部長
柴田直行

会社概要

プロフィール

商号	株式会社 帝国電機製作所	昭和 14 年 9 月	鉄道保安装置一式製作販売及び一般電気機械製作販売を主たる目的として、大阪市北区曾根崎新地に株式会社帝国電機製作所を設立
本社所在地	〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野 60	昭和 19 年 2 月	業務の拡張と戦時疎開のために兵庫県揖保郡新宮町に新宮工場を竣工
敷地面積	42,286 m ²	昭和 35 年 4 月 平成 3 年 11 月	自社製品キャンドモータポンプ初号機完成 米国デラウェア州ドーバー市に子会社 TEIKOKU USA INC. を設立
設立年月	昭和 14 年 9 月	平成 6 年 12 月	中国遼寧省大連市に大連キャンドモータポンプ廠との合弁会社大連帝国キャンドモータポンプ有限公司を設立
資本金	2,116,823 千円(平成 24 年 3 月末)	平成 11 年 1 月 平成 11 年 3 月	台湾台北市に子会社台湾帝国ポンプ有限公司を設立 シンガポールに子会社 TEIKOKU SOUTH ASIA PTE LTD. を設立
発行済株式数	9,450 千株	平成 11 年 5 月 平成 13 年 11 月 平成 14 年 8 月	大阪証券取引所市場第二部に上場 大連帝国キャンドモータポンプ有限公司を完全子会社化
業種	電気機械器具の製造販売	平成 15 年 2 月	ドイツ デュセルドルフ市に TEIKOKU ELECTRIC GmbH を設立
決算期	3 月 31 日(年 1 回)	平成 17 年 2 月	子会社 TEIKOKU USA INC. がアメリカのケミポンプ事業部(キャンドモータポンプ発祥会社)買収
従業員数	1,223 人(連結)、309 人(単体) (平成 24 年 3 月末)	平成 17 年 10 月	東京証券取引所市場第二部に上場
事業所数	2 工場、5 営業所、3 出張所	平成 18 年 9 月 平成 19 年 2 月 平成 20 年 10 月	子会社 TEIKOKU KOREA CO., LTD を設立 東京証券取引所市場第一部に上場 大阪証券取引所市場第一部に上場
連結	子会社 13 社 (国内 5、海外 8)	平成 20 年 10 月 平成 21 年 2 月	帝国電機技術開発センター及び上月電装新工場竣工 大連帝国キャンドモータポンプ有限公司工場増設
社是		平成 21 年 6 月	江蘇省無錫市に無錫大帝キャンドモータポンプ修理有限公司設立
みんなで良くなろう		平成 22 年 4 月	山東省済南市に済南大帝キャンドモータポンプ修理有限公司設立
誠実に事に当たろう		平成 22 年 5 月	平福電機新工場竣工
積極的にやろう		平成 24 年 3 月	TEIKOKU USA INC. が TEXAS PROCESS EQUIPMENT COMPANY 社のキャンドモータポンプ修理サービス事業を取得 大連帝国キャンドモータポンプ有限公司が台湾帝国ポンプ有限公司を子会社化(当社の孫会社化)

平成24年3月期 連結損益計算書の概要

単位 百万円	連結	前年同期比 %
売上高	17,765	+9.3
売上原価	11,072	+9.1
売上総利益	6,692	+9.6
販売費・一般管理費	4,561	+2.2
営業利益	2,130	+29.5
営業外損益	▲0.3	
経常利益	2,130	+39.9
特別損益	▲54	
税引前利益	2,075	+38.1
法人税等	836	
当期純利益	1,239	+60.1

[期末評価為替: 1US\$=77.74円、1元=12.33円、1EUR=100.71円、1TW\$=2.56円、1KRW=0.07]

四半期推移

百万円	平成23年3月				平成24年3月			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
売上高	3,530	4,094	4,418	4,212	4,313	4,594	4,239	4,616
営業利益	311	515	659	158	618	583	514	414
経常利益	204	461	639	218	620	426	535	547
当期純利益	62	235	416	59	293	254	328	362
1株当り当期純利益	6円65銭	24円95銭	44円15銭	6円25銭	31円42銭	27円85銭	35円87銭	39円60銭

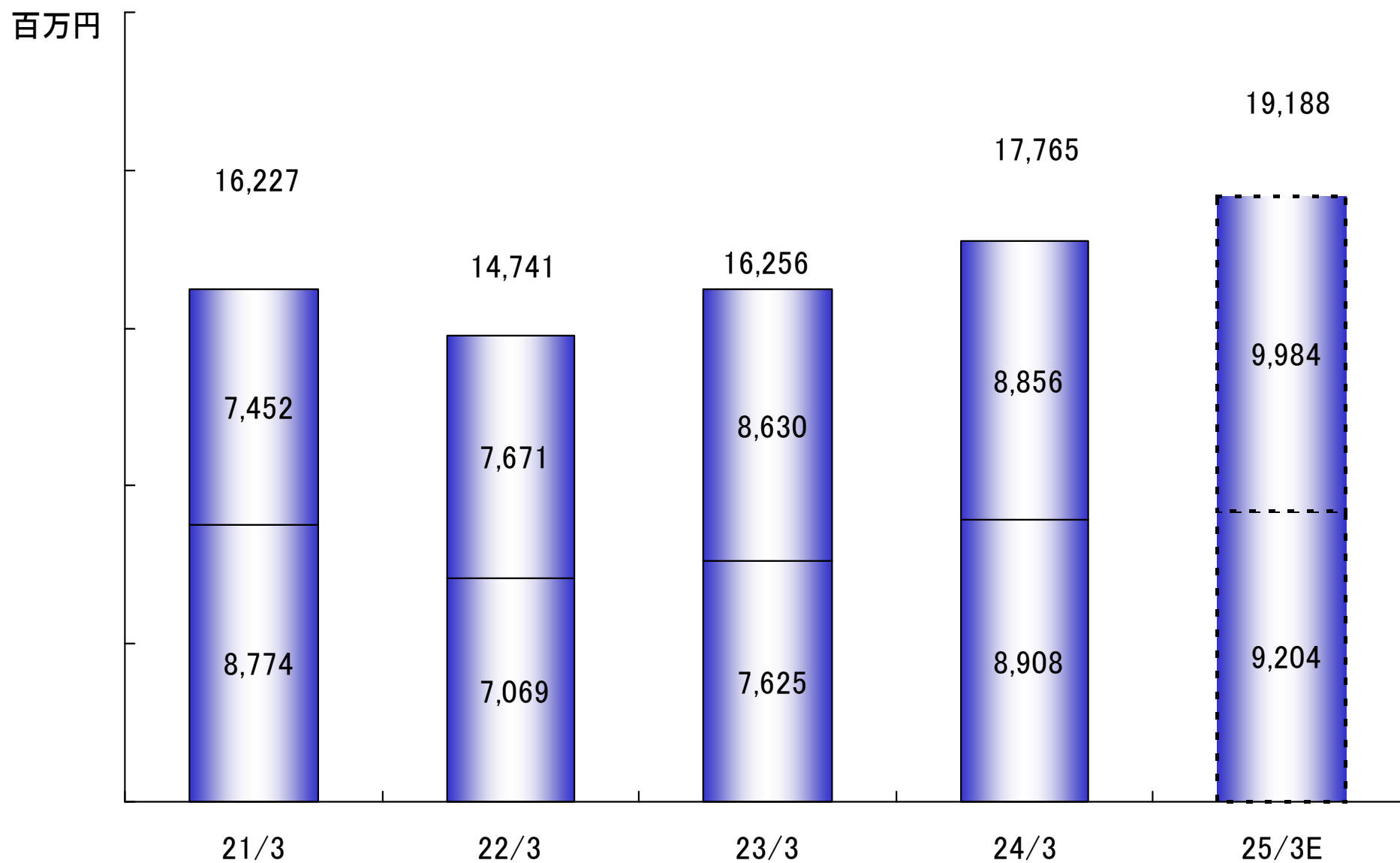
- ・平成24年3月期を通して売上・利益ともに堅調に推移した。特に東日本大震災やタイの大洪水により電子部品事業は生産調整等の影響を受けたため、業績動向が懸念されたが、サプライチェーンが急速に復旧したことによりその影響を最小限に抑えることができた。

今期計画

単位 百万円	通期	前期比 増減%
売上高	19,188	+8.0
売上原価	12,067	+9.0
売上総利益	7,121	+6.4
販売費・一般管理費	4,867	+6.7
営業利益	2,253	+5.8
経常利益	2,304	+8.2
当期純利益	1,513	+22.1

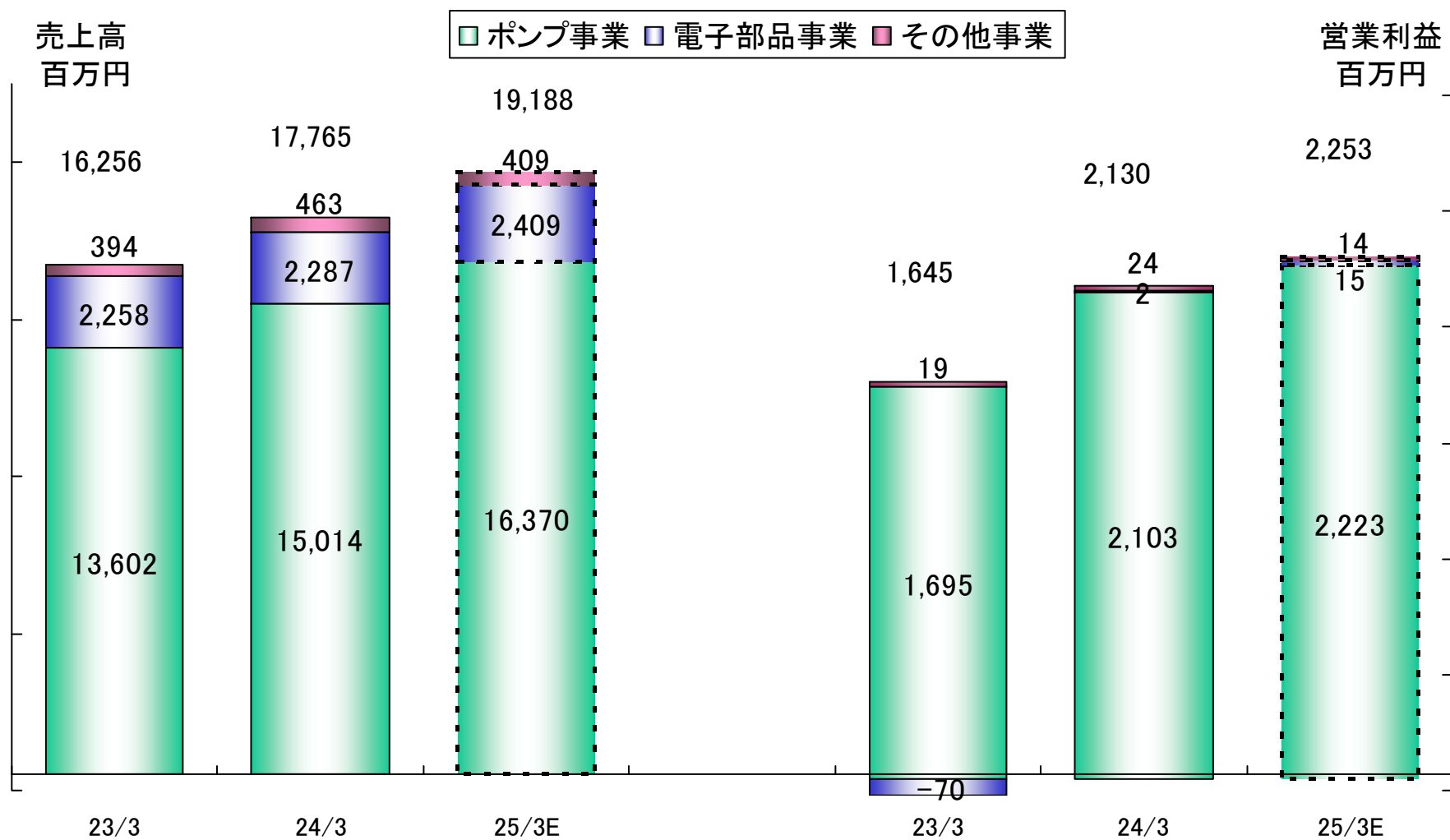
[計画為替レート：1US\$=80.0円、1元=13.0円、1EUR=105.0円、1TW\$=3.0円、1KRW=0.07円]

売上高の推移

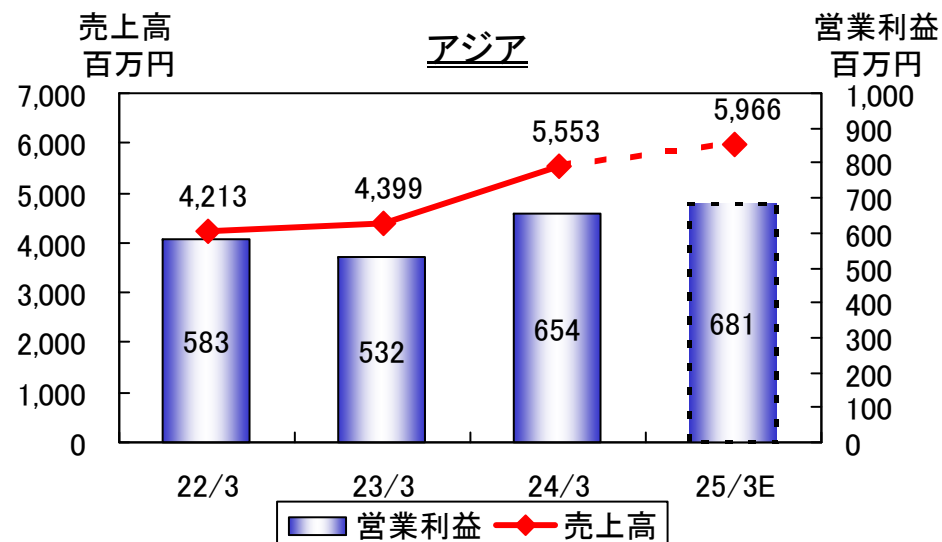
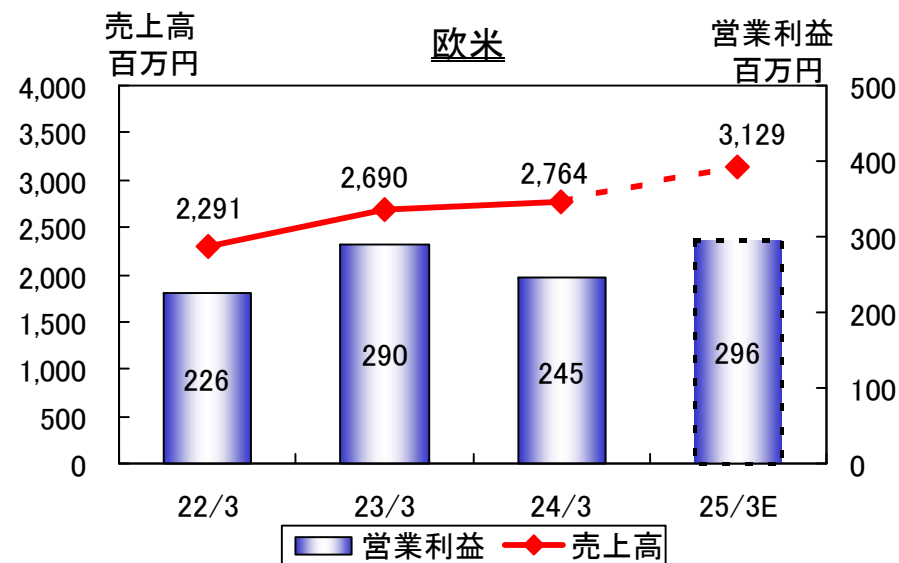
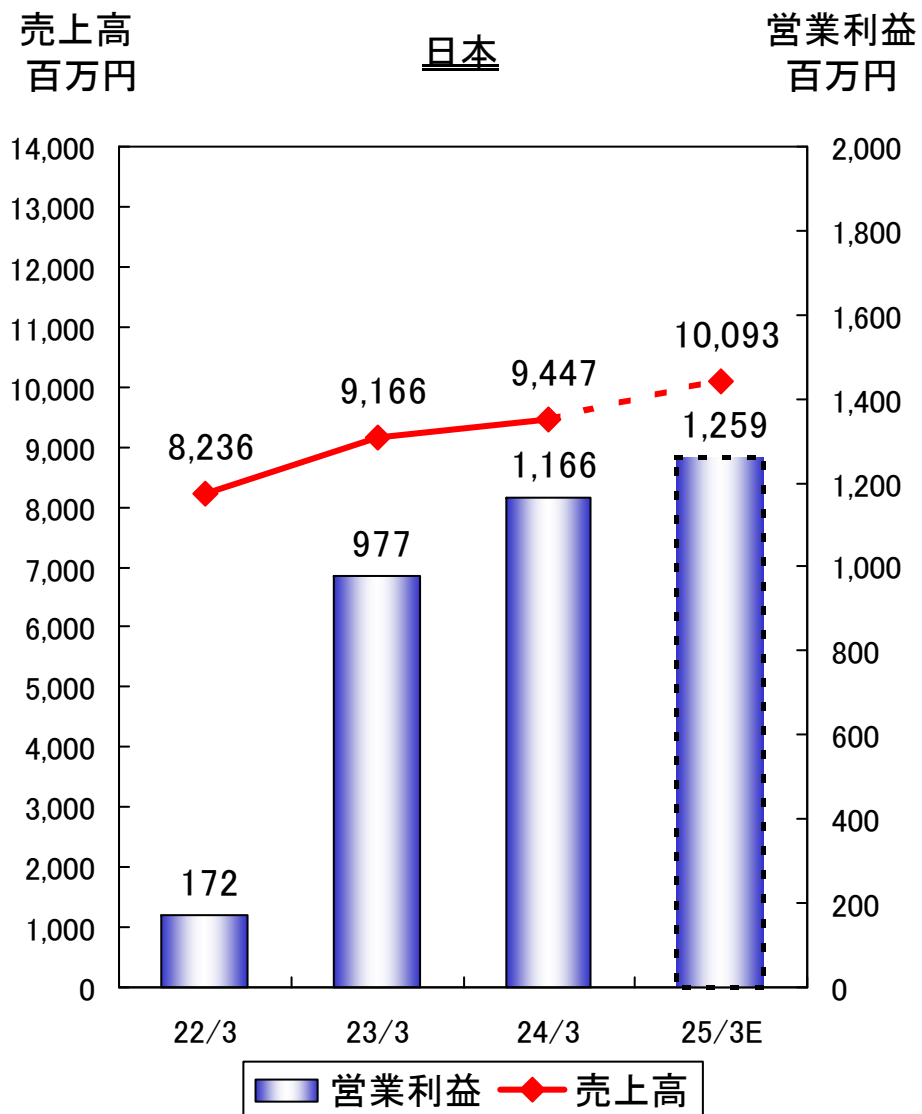


注) 予想数字は要注意事項ですので、取り扱いには十分ご注意ください

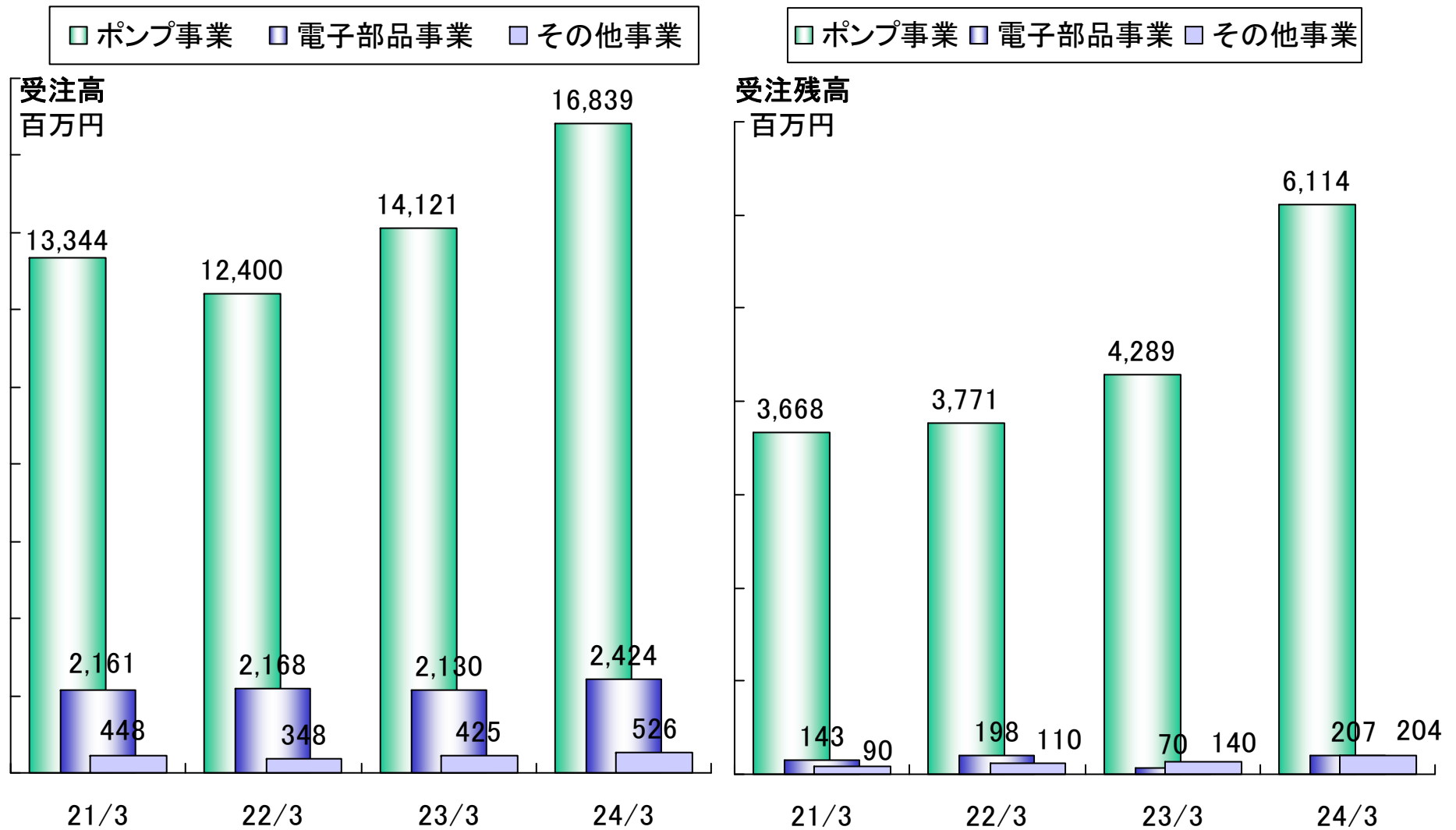
事業の種類別セグメント



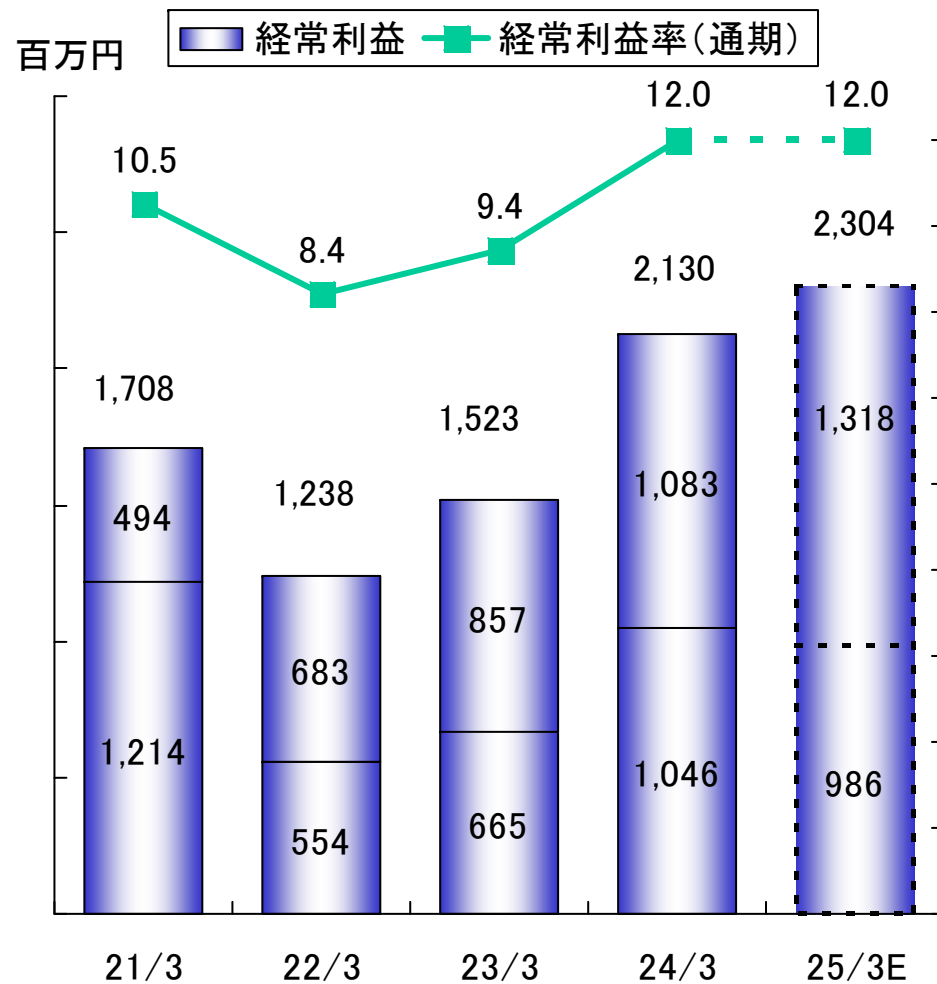
所在地別セグメント



事業の種類別受注と受注残高



経常利益



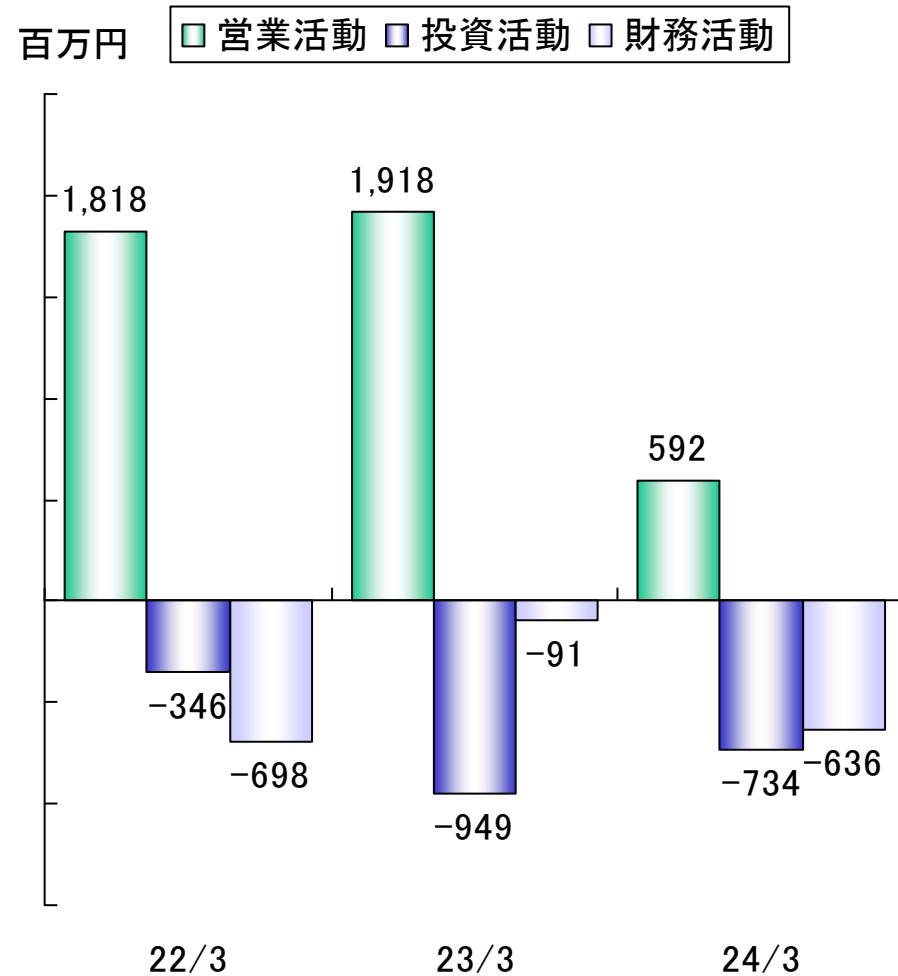
増減要因(前期比)

経常利益	+607百万円
販管費 (うち人件費)	+99百万円 +0.6百万円)
営業外収益	+16百万円
営業外費用	▲104百万円
親会社	+252百万円
国内子会社	+191百万円
海外子会社	+63百万円

平成24年3月期 連結貸借対照表の概要

単位 百万円	連結	前期末 増減		連結	前期末 増減
流動資産	12,866	880	流動負債	4,847	422
現預金	2,714	▲795	支払手形・買掛金	2,040	244
受取手形・売掛金	5,922	850	短期借入金	641	113
製品	963	▲39	その他	2,166	64
仕掛品	1,947	770			
原材料及び貯蔵品	874	76	固定負債	1,460	242
その他	445	17	その他	1,460	242
固定資産	7,266	227			
有形固定資産	5,528	104	純資産	13,824	442
無形固定資産	509	200	株主資本	14,160	519
投資その他の資産	1,227	▲77	その他の包括利益累計額	▲335	▲76
資産合計	20,132	1,107	負債純資産合計	20,132	1,107

キャッシュフローと設備投資



設備投資(取得ベース)

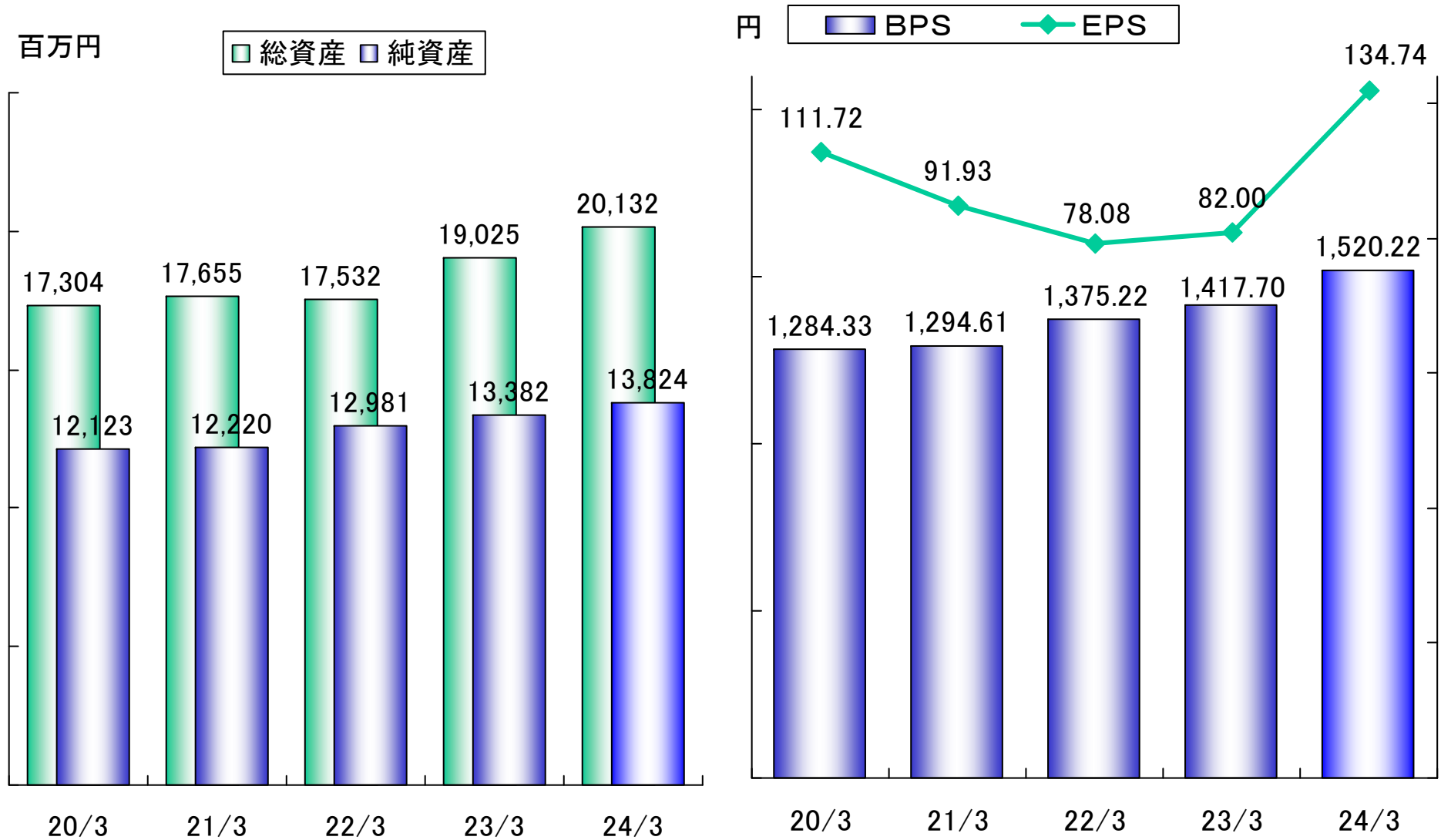
実績

親会社	384百万円
子会社	268百万円
合計	653百万円

計画(通期)

親会社	420百万円
子会社	259百万円
合計	680百万円

総資産、純資産、BPS、EPS



株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所



株式会社 帝国電機製作所

株式会社 TEIKOKU 機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所

株式会社 帝国電機製作所